

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(3)-才	保健衛生の推進	施策	⑤ 薬物乱用防止対策の推進
			施策の小項目名	—
主な取組	麻薬等対策事業			
対応する主な課題	⑥本県の薬物事犯者数は、増加傾向にあり、過去5年間の平均で毎年約160名が検挙されている。覚せい剤事犯については、再犯率が高く、再乱用防止対策が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
薬物教育や地域に根ざした薬物乱用防止啓発活動を実施するとともに、薬物密売組織及び末端乱用者への対策を徹底し、薬物依存・中毒者の治療・社会復帰及び家族への支援の充実強化による再乱用防止対策の推進など関係機関が一体となった活動を実施する。		65回 普及啓発活動回数			→	85回
実施主体	県、関係機関					
担当部課【連絡先】	保健医療部衛生薬務課 【098-866-2055】					
		薬物乱用防止活動、依存・再乱用防止対策				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 麻薬等対策事業費										
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
							当初予算額	主な財源		
県単等	直接実施	3,510	3,022	4,163	2,501	3,297	4,413	県単等	OR元年度： 学校地域における薬物乱用防止講習会の開催(16回)、地域等における薬物乱用防止啓発のための街頭キャンペーンの実施(12回) OR2年度： 学校地域における薬物乱用防止講習会の開催(16回)、地域等における薬物乱用防止啓発のための街頭キャンペーンの実施(12回)	
予算事業名 薬物乱用防止特別啓発事業										
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
							当初予算額	主な財源		
県単等	委託	2,593	2,766	2,994	2,935	2,994	3,694	県単等	OR元年度： 薬物乱用防止指導員等の研修会の開催(7回)、薬物乱用者等を対象とした薬物再乱用防止教室の開催(40回) OR2年度： 薬物乱用防止指導員等の研修会の開催(7回)、薬物乱用者等を対象とした薬物再乱用防止教室の開催(40回)	

様式1(主な取組)

活動指標名	普及啓発活動回数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	126回	102回	65回	53回	98回	75回	100.0%	6,291	順調	九州厚生局沖縄麻薬取締支所や沖縄県警、教育機関等と連携した薬物乱用防止講習会(37回)、地域等における街頭キャンペーン(13回)、薬物乱用防止指導員等の研修会(8回)、薬物乱用者を対象とした薬物再乱用防止教室(40回)を開催し、中・高校生や大学等の若年層及び地域住民への普及啓発を図った。
活動指標名					R元年度					
実績値										
活動指標名					R元年度					
実績値										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 九州厚生局沖縄麻薬取締支所や沖縄県警、教育機関、医療機関、民間団体等と連携した薬物乱用防止の普及啓発を特に、各種教育機関に行った結果、活動回数は計画値75回に対し98回となった。これにより、中・高校生や大学等の若年層及び地域住民への普及啓発が図られた。 また、薬物乱用防止教室講師育成研修会を指導員向けに行い、講師養成に努めた。
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> 大麻に関する誤った情報がインターネット等を中心に拡散していることから、県民に対し、大麻に関する正しい知識の周知を図る。 薬物再乱用防止教室の取組をより効果的に推進するため、医療機関や薬物依存症リハビリ施設等との会議や研修会を通じて、薬物再乱用防止対策について連携をより強化する。 多様化する薬物乱用問題に対応するため、専門的な研修等を行い薬物乱用防止指導員等の資質向上を図る。 								<ul style="list-style-type: none"> 教育庁、県警と連携し、教職員向けの講習会の実施や生徒向けの啓発資材の配布、マスコミを活用した注意喚起を行うなど、大麻に対する正しい知識の周知を図ることが出来た。 医療機関や薬物依存症リハビリ施設等との会議や研修会を通じて、薬物再乱用防止対策について連携を図ることが出来た。 麻薬取締官などによる専門的な研修を行い、薬物乱用防止指導員の資質の向上を図ることが出来た。 		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 青少年の薬物乱用のツールとしてSNS等が利用されているが、薬物乱用防止の広報啓発の一翼を担う薬物乱用防止指導員のSNS等についての知識が十分とは言えない。

○外部環境の変化

・ これまで県内で栽培や自生が確認されていなかった違法なけしが沖縄本島広域にわたって栽培や自生が確認された。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 薬物乱用防止指導員について、青少年の薬物乱用のツールとなっているSNS等に対する知識や対応方法等について研修を行う必要がある。
- ・ 違法なけしについて、広く県民に対し、周知を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 薬物乱用防止指導員研修会において、SNS等についての知識や対応方法などを取り入れた研修を行う。
- ・ 違法なけしについて、講習会やマスコミ等を活用して、広く県民に対して注意喚起を行う。